

真壁遺跡

分譲マンション建設に伴う発掘調査報告書

2024年3月

岡山県総社市

真壁遺跡

分譲マンション建設に伴う発掘調査報告書

2024年3月

岡山県総社市



① 完掘全景 南西から



② 竪穴住居 完掘 南から



① 竪穴住居 南北断面 東から



② 竪穴住居 炉状遺構 北から

はじめに

総社市は、広く肥沃な平野と高梁川が運ぶ豊かな水に恵まれ、また、中国山地と瀬戸内海、そして四国山脈の間に位置することから、穏やかな気候に恵まれており、水稲耕作開始期以降栄え、数々の遺跡が残されています。

このような遺跡も開発によって破壊される恐れがあることから、中央区画整理事業を契機に1980年から初めて市独自に発掘調査を実施することになり、今日に至りました。

中央区画整理事業が実施された地区内において、市内初の10階建てマンションが建設されることになり、2003年、発掘調査を実施しました。その成果をここに報告いたします。

総社市内には、作山古墳・こうもり塚古墳・鬼城山・備中国分寺跡・備中国分尼寺跡など著名な国指定史跡が存在するほか、数多くの遺跡が知られています。これらの遺跡を保護・保存し、後世に伝えていきたいと思います。

最後になりましたが、平素から本市の文化財行政に格別の御指導・御協力を賜っております関係諸機関及び関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、より一層の御指導・御支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和6（2024）年3月

岡山県総社市

例 言

1. 本報告書は、分譲マンション建設に伴って、総社市教育委員会が発掘調査を実施した真壁遺跡の報告書である。
2. 調査地は、総社市中央五丁目9-107に所在する。
3. 発掘調査は、2003年8月19日から9月3日の期間で、総社市教育委員会文化課主事：高橋進一・主査：平井典子が担当して実施した。調査面積は約550㎡である。（役職は2003年度当時のものである。）
4. 整理作業は高橋・平井が担当し、2003年度に整理作業の一部を、2023年度に整理作業と報告書作成作業を実施した。
5. 遺構・遺物の実測・トレースは、総社市埋蔵文化財学習の館：和田かほり、高田由美子、戸倉久美の協力を得て高橋・平井が行った。
6. 本報告書の編集・執筆は高橋・平井が行った。
7. 遺物の写真は、高橋が撮影した。
8. 出土遺物・図面・写真類はすべて総社市埋蔵文化財学習の館（総社市南溝手265-3）に保管している。

凡 例

1. 本報告書に用いた高度は海拔高であり、北方位についてはすべて磁北である。
2. 本報告書に掲載した遺構・遺物の縮尺は個々に明記した。
3. 本報告書では、各遺構の番号および土器・石器などの遺物番号は、それぞれ通し番号とし、挿図・写真図版なども連番とした。ただし住居址に伴う柱穴などは別途番号を付した。
4. 第1図は「おかやま全県統合型GIS」から転載し、加筆したものである。
5. 第2図は、中央区画整理事業の遺構配置図（総社市史考古資料編 11真壁遺跡 図17から引用）を、道路の端部や側溝などに合わせて合成したものである。
6. 径の計測が不可能な土器については、断面図の右側に外面、左側に内面を表示している。
径が不確かな土器については、図の中軸線の左右を一部白抜きにしている。
7. 遺物の色調は、『新版標準土色帖（1994年版）』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所監修）による。



総社市位置図 (S=1/2,000,000)

目 次

巻頭図版	
はじめに	
例言・凡例	
目次	

第1章 地理的歴史的環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1

第2章 発掘調査の経緯

第1節 調査に至る経緯	7
第2節 調査体制	8
第3節 調査の経過	8

第3章 発掘調査の概要

遺構・遺物	10
堅穴住居	10
土壇	12
溝	14
溝状遺構	17
遺構に伴わない遺物	18

第4章 まとめ	19
---------------	----

遺物観察表	
図版	
報告書抄録	

目 次

第1図 周辺遺跡分布図 (S=1/45,000) ……………	2	第15図 土壘-5 (S=1/60) ……………	13
第2図 真壁遺跡遺構配置図 (S=1/1,750) ……………	6	第16図 土壘-6 (S=1/60) ……………	14
第3図 調査地位位置図 (S=1/5,000) ……………	9	第17図 土壘-7 (S=1/60) ……………	14
第4図 遺構配置図 (S=1/200) ……………	10	第18図 土壘-8 (S=1/60) ……………	14
第5図 調査区西壁断面図 (S=1/60) ……………	10	第19図 溝-1～3断面図 (S=1/60) ……………	15
第6図 竪穴住居 (S=1/60) ……………	11	第20図 溝-4 西断面・東断面図 (S=1/40) ……	15
第7図 竪穴住居出土遺物 (S=1/4) ……………	12	第21図 溝-2 出土遺物 (S=1/4) ……………	15
第8図 竪穴住居出土遺物 (S=1/2) ……………	12	第22図 溝-3 出土遺物 (S=1/4) ……………	15
第9図 土壘-1 (S=1/60) ……………	13	第23図 溝-2・3 上層出土遺物1/2 (S=1/4) ……	16
第10図 土壘-2 (S=1/60) ……………	13	第24図 溝-2・3 上層出土遺物2/2 (S=1/4) ……	17
第11図 土壘-3 (S=1/60) ……………	13	第25図 溝-4 出土遺物 (S=1/4) ……………	17
第12図 土壘-3 出土遺物 (S=1/4) ……………	13	第26図 溝状遺構-1・溝状遺構-2 (S=1/60) ……	17
第13図 土壘-4 (S=1/60) ……………	13	第27図 溝状遺構-3・4・5 (S=1/60) ……………	18
第14図 土壘-4 出土遺物 (S=1/4) ……………	13	第28図 遺構に伴わない遺物 (S=1/4) ……………	18

表 目 次

第1表 遺物観察表 (土器) ……………	20
第2表 遺物観察表 (石器) ……………	22

図 版 目 次

巻頭図版 1

- ① 完掘全景 南西から
- ② 竪穴住居 完掘 南から

第1図版 調査前 南東から ……………	23
第2図版 完掘全景 南西から ……………	23
第3図版 竪穴住居床面炭化物出土状況 南から ……	23
第4図版 竪穴住居完掘 南から ……………	24
第5図版 竪穴住居南北断面 東から ……………	24
第6図版 竪穴住居竪状遺構 北から ……………	24
第7図版 竪穴住居竪状遺構半截状況 東から ……	25
第8図版 竪穴住居竪状遺構完掘 東から ……………	25
第9図版 竪穴住居南辺壁体痕跡検出状況 北から ……	25
第10図版 竪穴住居南北トレンチ 南辺壁体痕跡 南から ……	26
第11図版 竪穴住居東西土土境土流入状況 北から ……	26
第12図版 竪穴住居東西断面東半 北から ……………	26
第13図版 竪穴住居東西断面西半 北から ……………	27
第14図版 竪穴住居P-1 検出状況 南から ……………	27
第15図版 竪穴住居P-1 断面 南から ……………	27
第16図版 竪穴住居P-2 検出状況 南から ……………	28
第17図版 竪穴住居P-2 断面 南から ……………	28
第18図版 竪穴住居P-3 検出状況 北から ……………	28

巻頭図版 2

- ① 竪穴住居 南北断面 東から
- ② 竪穴住居 竪状遺構 北から

第19図版 竪穴住居P-3 断面 北から ……………	29
第20図版 竪穴住居P-4 検出状況 北から ……………	29
第21図版 竪穴住居P-4 断面 北から ……………	29
第22図版 溝-1～3 完掘 南東から ……………	30
第23図版 溝-2 鉄器片出土状況 南から ……………	30
第24図版 溝-4 土器出土状況 南西から ……………	30
第25図版 溝-1～3 断面 北東から ……………	31
第26図版 溝-1～3 土手断面 南東から ……………	31
第27図版 溝-4 断面 東から ……………	31
第28図版 西壁断面 南東から ……………	32
第29図版 完掘全景 北東から ……………	32
第30図版 調査風景 東から ……………	32
第31図版 竪穴住居出土 高坏 (5) ……………	33
第32図版 竪穴住居出土 小型丸底壺 (6) ……………	33
第33図版 竪穴住居出土 瓶 (9) ……………	33
第34図版 竪穴住居出土 碇石 (S-1) ……………	33
第35図版 溝-2・3 上層出土 鉢 (64) ……………	33
第36図版 溝-2・3 上層出土 高坏 (60) ……………	33

第1章 地理的歴史的環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境

岡山県三大河川の一つである高梁川の沖積作用により、高梁川左岸の総社市内には広い平野が形成されている。平野部の北部は低丘陵が点在し、さらに北には、吉備高原の山塊が連なる。南や東にも低丘陵がみられるが、さらに南には福山を取り巻く山塊が広がる。

この山塊の間に形成された平野には、高梁川の支流が無数に走り、その中でも中央付近を東西に流れる旧河道は、「備中国風土記」の「宮瀬川」に比定されるものと考えられ、この川の南が窪屋郡、北が賀夜郡となる。

遺跡が所在する地点は窪屋郡にあたり、1980～1982年に実施された中央区画整理事業に伴う真壁遺跡の発掘調査成果からみて、今回の調査地点は微高地の南端に近い部分にあたるものと想定される。

第2節 歴史的環境

旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、発掘調査によってナイフ形石器1点が出土した平野部の窪木薬師遺跡¹のほかは、高梁川の東に接する低丘陵上で発見されている。権現山遺跡²、宝福寺裏山遺跡³、浅尾遺跡⁴、井尻野遺跡⁵があげられ、中でも浅尾遺跡ではナイフ形石器と翼状剥片を含む4点の石器類が採集されている。翼状剥片は製品ではなく国府型ナイフ型石器の素材となるもので、キャンプサイトに偶然残ったものとしては考えにくい。また、確実にこの時期の所産とは言えないものの、石器を製作する際の剥片等も数点採取されている。なお、約1.5kmの距離にある井尻野遺跡は、3点の石器が採集された宝福寺裏山遺跡や権現山遺跡と同一丘陵上に立地し、総社市内の旧石器遺跡が集中する傾向にあることから、井尻野周辺には、旧石器時代の母集落が存在した可能性も考えられる。採集された石器の石材はほとんどがサヌカイトであるが、井尻野遺跡からは隠岐島産黒曜石を使用した尖頭器が出土している。

縄文時代

草創期の土器は発見されていないが、この時期の可能性のある尖頭器が服部遺跡⁶から出土している。他に同時期の遺物を含まないため実態は明らかでない。

早期の遺跡としては、平野部に位置する真壁遺跡内の小規模開発に伴う調査で、押型文土器が出土したとされており、沖積地の形成が早くから始まっていたものと推測される。そのほか、長良山からも1個体に近い山形押型文の深鉢と、格子目の押型文土器片が出土している⁷。

前期に入ると、市内北西部の日羽ケンギョウ田遺跡⁸から、少量ではあるが磯の森式に属する薄手の土器片が出土している。

後期に入ると遺跡数は増大し、前出のケンギョウ田遺跡からは後期前半の中津式土器を中心とした土器・石器が多数出土している。



1. 真壁遺跡
2. 延遺跡
3. 三輪遺跡群
4. 宮山墳墓群
5. 岩屋古墳群
6. 作山古墳
7. 峠古墳群
8. 福山城跡
9. 江崎古墳群
10. 緑山古墳群
11. 法蓮古墳群
12. 遠山古墳
13. 南満手遺跡
14. 窪木遺跡
15. 中山古墳群
16. 久米大池古墳群
17. 新山院寺
18. 鬼城山
19. 西山古墳群
20. 免登木古墳群
21. 宝福寺裏山遺跡・井尻野古墳群
22. 秦簇寺
23. 一丁区古墳群
24. 金子古墳群
25. 上原遺跡
26. 伊予郡山古墳群
27. 砂子古墳群
28. 長砂古墳群
29. 荒平山城跡
30. 日羽ケンギンウ田遺跡

第一四 周辺遺跡分布図 (S=1/45,000)

後期後半になると、人々の平野部への進出が始まり、真壁遺跡³、南溝手遺跡⁴、窪木遺跡⁵、三輪鷹尾手遺跡⁶など、総社平野のいたるところで遺跡が発見されており、ここでは土器や石器、骨片、焼土粒などの集中箇所が認められる。県南の沖積平野では土が同色化しており、縄文時代の遺構を検出することは困難であるが、このような集中箇所が住居跡である可能性も考えられる。

縄文時代は、狩猟採集、漁労の時代とされてきたが近年の調査成果により、一定程度の栽培が行われていたことが判明している。

弥生時代

水田址が発見されて以降を、従来の縄文時代晩期後半から分離して、弥生時代早期とする。

市内では、南溝手遺跡、窪木遺跡、三輪三軒屋遺跡、服部遺跡など、突帯土器の段階の遺跡が知られているが、このうち、窪木遺跡と三輪三軒屋遺跡からは、朝鮮半島の影響を受けた丹塗磨研土器が出土している。他に先駆け先進地の文化を取り入れたものと考えられるが、水田址は未だ発見されていない。

前期の遺跡としては前出の南溝手遺跡、窪木遺跡、真壁遺跡、三輪鷹尾手遺跡があげられる。三輪鷹尾手遺跡からは灌漑に伴うと考えられる溝群のほか、環濠の可能性が高いV字型の断面を持つ大溝も検出されている⁷。なお、南溝手遺跡からは面的には確認されていないものの、水田層と思しき層が発見されている。

中期は、平野部では前出の遺跡が継続して営まれるとともに、丘陵上にも2～3軒からなる小集落が築かれるようになる。殿山遺跡⁸や岩屋遺跡⁹である。

これらの丘陵上の集落は後期に入ると消滅し、山手の前山遺跡¹⁰や三輪丘陵の岩屋遺跡のように土壌からなる集団墓地に取って代わられる。後期後半以降は、宮山墳丘墓¹¹など、集団墓の一面に墳丘を持つ個人墓が出現し、集団内に格差が生じたことを物語っている。

古墳時代

古墳時代前期に入ると、天望台古墳¹²・三笠山古墳¹³・妙蓮寺古墳¹⁴・井山古墳¹⁵などの前方後円墳のほか殿山古墳群、岩屋古墳群など円墳・方墳が三輪山山塊に多数分布する。

古墳時代中期には、全国第10位の規模を誇る作山古墳¹⁶をはじめ、小造山古墳¹⁷・宿寺山古墳¹⁸などの大型前方後円墳のほか、帆立貝形前方後円墳の小山古墳¹⁹、鍛冶具一式が出土した随庵古墳²⁰が造営される他、折敷山古墳²¹、角力取山古墳²²、短甲が出土した佐野山古墳²³等の方墳もみられる。

古墳時代後期には、こうもり塚古墳²⁴、江崎古墳²⁵などの前方後円墳をはじめ、大型の横穴式石室をもつ鷹尾塚古墳²⁶、緑山古墳群²⁷、福井大塚古墳群²⁸のほか、天神古墳群、峠古墳群などの群集墳も多数みられる。

これらの古墳を造営する原動力となった集落址も平野部に認められ、真壁遺跡、三輪遺跡群が古墳時代前期から営まれている。

これらの古墳時代の集落では、5世紀以降、窪木薬師遺跡²⁹、三輪・荒神ヶ市遺跡³⁰、高梁川以西ではあるが砂子遺跡などで鍛冶工房跡が多数発見されており、市内の東・中央・西と鍛冶工人が組織されていたものと考えられる。

また、6世紀の後半には、最古級の製鉄遺跡である千引カナクロ谷製鉄遺跡³¹で本格的な鉄生産が

始まり、その後、市内各地で鉄生産が行なわれるようになる。

古代

古代には、高梁川右岸ではあるが、秦廃寺³が創建され、その後高梁川左岸にも栢寺廃寺⁴、備中国分僧寺⁵・国分尼寺⁶などの寺院が建立される。そのほか、三須廃寺や三輪廃寺の存在も語られるが、瓦の出土はあるものの、寺院址か否かは定かでない。

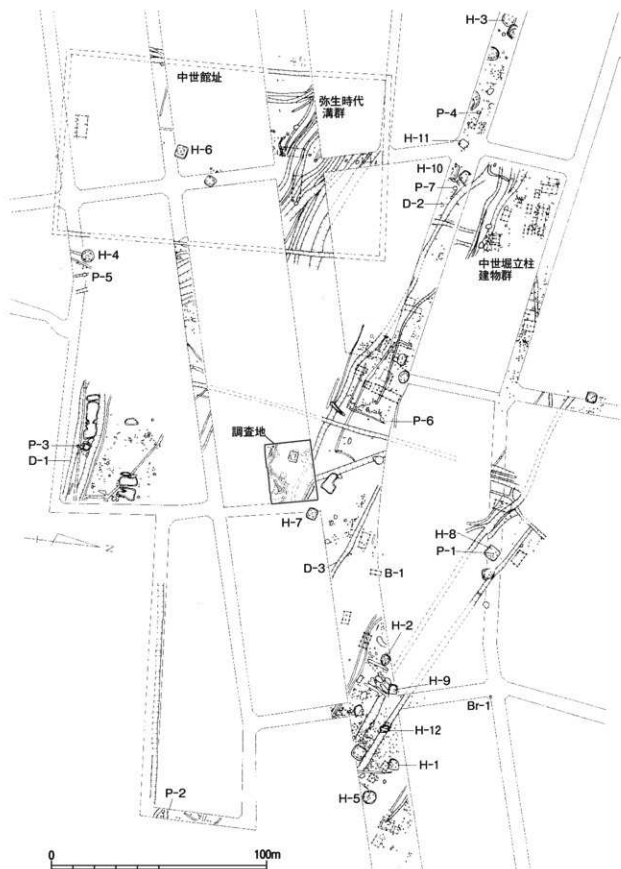
飛鳥期後半には、鬼城山山頂付近に周囲約2.8mを城壁で囲まれた鬼ノ城⁷が築かれている。

現在、備中国府や吉備の大宰府はいまだその所在が明らかになっていないが、これまでの著名な遺跡の分布からみて、総社市内に存在した可能性は高いものと思われる。

註

- 1 平井典子1993「窪木薬師遺跡 第2節」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』86
- 2 近藤義郎1987「3権現山の石器」『総社市史 考古資料編』
- 3 間壁俊子1967「高梁川下流域の無土器時代遺跡」『倉敷考古館研究集報』第2号
- 4 鎌木義昌・小林博昭1987「1茂尾遺跡」『総社市史 考古資料編』
- 5 谷山雅彦1997「分譲住宅造成地立会調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』7
- 6 中野雅美1997「服部遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』121
- 7 村上幸雄1987「4長良山遺跡」『総社市史 考古資料編』
- 8 間壁忠彦・間壁俊子1967「岡山県昭和町羽ヶ丘キョウ田遺跡」『倉敷考古館研究集報』第3号
- 9 村上幸雄ほか1987「11真壁遺跡」『総社市史 考古資料編』
- 10 平井泰男ほか1995「南漢手遺跡1」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』100
平井泰男ほか1996「南漢手遺跡2」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』107
- 11 岡田 博ほか1997「窪木遺跡1」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』120
平井泰男ほか1998「窪木遺跡2」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』124
- 12 高橋進一1999「駅南区画整理事業に伴う発掘調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』9
- 13 平井 勝1982「殿山遺跡 殿山古墳群」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』47
- 14 平井典子1994「岩屋遺跡 岩屋古墳群」『総社市埋蔵文化財調査年報』4
- 15 物部茂樹ほか「前山遺跡 鎌戸原遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』115
- 16 高橋 義・鎌木義昌・近藤義郎1987「12宮山墳墓群」『総社市史 考古資料編』
- 17 近藤義郎・中田啓司1987「36天望台古墳」『総社市史 考古資料編』
- 18 近藤義郎・中田啓司1987「37三笠山古墳」『総社市史 考古資料編』
- 19 中田啓司・近藤義郎1987「34井山古墳」『総社市史 考古資料編』
- 20 平井典子2016「作山古墳測量調査報告書」『総社市埋蔵文化財発掘調査報告』25
- 21 澤田秀実ほか2014「小造山古墳・小坂古墳 測量調査報告書」くらしき作陽大学
- 22 葛原克人2003「10宿寺山古墳」『山手村史 資料編』
- 23 日野浦弘幸2003「11小山古墳」『山手村史 資料編』
間所克仁2021「宿寺山古墳の確認調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』30
平井典子・高橋進一2023「宿寺山古墳前方部の確認調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』32
- 24 鎌木義昌編1965「総社市随庵古墳」総社市教育委員会
- 25 前角和夫1993「折敷山遺跡・雲上山11号墳」『総社市埋蔵文化財発掘調査報告』10
- 26 葛原克人2003「9角力取山古墳」『山手村史 資料編』
- 27 近藤義郎1987「33佐野山古墳」『総社市史 考古資料編』
- 28 葛原克人1979「備中こうもり塚古墳」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』35

- 金田善歌ほか2023「史跡こうもり塚古墳」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』266
- 29 藤田憲司2023「こうもり塚古墳と江崎古墳」『吉備考古ライブラリィ』9
- 30 清家 章ほか2019「寿尾塚古墳Ⅰ」岡山大学考古学研究室
- 清家 章ほか2023「寿尾塚古墳Ⅱ」岡山大学考古学研究室
- 31 近藤義郎ほか1987「岡山県総社市 緑山古墳群」総社市文化振興財団
- 32 谷山雅彦1994「福井地内の山土採取事業および分譲宅地造成事業に伴う発掘調査 福井大塚古墳群」『総社市埋蔵文化財調査年報』4
- 高橋進一1994「福井新田地区小規模ほ場整備事業に伴う発掘調査 福井大塚Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ号墳」『総社市埋蔵文化財調査年報』4
- 高橋進一1995「福井地内における分譲宅地造成事業に伴う発掘調査 福井大塚古墳群」『総社市埋蔵文化財調査年報』5
- 33 高崎 東1993「窪木素師遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』86
- 34 高橋進一2004「駅南区画整理事業に伴う発掘調査—荒神ヶ市遺跡」『総社市埋蔵文化財調査年報』13
- 35 武田恭彰1999「奥坂遺跡群」『総社市埋蔵文化財発掘調査報告』15
- 36 葛原克人1987「62泰原塚寺」『総社市史 考古資料編』
- 37 岡本寛久1979「栢寺庵寺緊急発掘調査報告書」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』34
- 38 葛原克人1987「64備中国分僧寺跡」『総社市史 考古資料編』
- 39 葛原克人1987「65備中国分尼寺跡」『総社市史 考古資料編』
- 40 村上幸雄ほか2005「古代山城 鬼ノ城」『総社市埋蔵文化財発掘調査報告』18
- 岡田 博・亀山行雄2006「国指定史跡 鬼城山」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』203
- 金田善歌・岡本泰典ほか2013「史跡 鬼城山2」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』236



第2図 真壁遺跡遺構配置図 (S=1/1,750)

第2章 発掘調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

総社市街地の南東部は、かつて県南広域都市計画事業として中央土地区画整理事業が始まり、町並みが形成された。この事業に伴って、総社市教育委員会独自による初めての埋蔵文化財発掘調査が行われたのは、1980年7月～1982年9月のことであった。道路部分を中心に、一部宅地部分の調査も実施された。

この時の調査で見えられた真壁遺跡は、縄文時代後期～中世にわたる複合遺跡で、総社平野部の集落遺跡として、初めてその様相が明らかとなった。真壁遺跡が立地する微高地では、周辺の小規模調査によって押型土器が発見されていることから、その形成の開始は縄文時代早期以前にまで遡るものと考えられる。

また、真壁遺跡の南約500mに位置する三輪山には、弥生時代後期に築かれた墳墓群のほか古墳群も見えられており、その総数は100基に近いものである。

これらの墳墓群を築いた集団の母集落は、真壁遺跡を中心とした遺跡群と想定され、墳墓との有機的な関係を考える上で重要な遺跡と考える。

この真壁遺跡の包蔵地に、分譲マンションの建設が計画され、建築確認申請が提出されたのは、2003年8月のことであった。包蔵地内での開発計画のため、埋蔵文化財保護法の57条の3（現在の93条）により書類提出を要請し受理した。計画では、10階建てであることから、改良杭による補強が必要で、径1mの杭を311本打ち込む予定となっていた。

中央区画整理事業に伴う発掘調査によると、建設予定地付近では遺構密度は低くなっているが、遺構が存在する可能性は高く、杭打ちにより遺構が破壊されることが危惧された。そのため確認調査を実施し、遺構が検出された場合は、建物部分全面の発掘調査を実施することとした。

2003年8月18日に確認調査を実施した結果、造成土直下から遺構が検出された。工事着手まで期間がないことから、取り急ぎ建築主である和建設と「埋蔵文化財発掘調査の覚書」を締結し、引き続き造成土を除去して、発掘調査に入った。

第2節 調査体制

発掘調査は、総社市教育委員会が2003年8月19日から9月3日まで実施した。調査体制は下記のとおりである。

調査組織

総社市教育委員会		総社市埋蔵文化財学習の館	
教育長	桑田交三	館長	村上幸雄
教育次長	丸山光雄	臨時職員	近藤雅子
参事	平田充宏	臨時職員	田中富子
文化課長	加藤信二		
課長補佐	谷山雅彦（調整担当）		
主査	平井典子（調査担当）		
主事	高橋進一（調査担当）		
主事	笹田健一（庶務担当）		

発掘作業員

片山茂樹、白神武夫、内藤勇、内藤章平、間野隆志、黒江たか子、内藤與志恵、深見教、永岡和美

第3節 調査の経過

覚書に基づいて協議を行った結果、工事着手までに時間的な余裕がないとのことであった。また、全面の表土を除去した結果、遺構密度は薄く、短期間で調査が終了する可能性が高かったことから、当時携わっていた駅南区画整理事業に伴う発掘調査を一時中断し、マンション建設に伴う発掘調査を優先することとした。

調査期間は2003年8月19日～9月5日までの約2週間半とした。

調査費用は、大まかな試算をし、発掘調査終了後精算して、職員の給与を除く全経費を建築主の負担とした。

なお、建築主からは、重機など種々の便宜を図っていただいた。記して感謝の意を表します。

- 8月18日～ 調査地試掘。遺構確認。
- 8月19日～ 重機による表土剥ぎを行い、発掘調査実施。
- 8月20日～ 重機による床掘を行い平面の遺構検出。
- 8月21日～ 遺構検出。遺構掘り下げ開始。
- 8月25日～ 竪穴住居掘り下げ開始。
- 9月2日～ 竪穴住居完掘写真・実測。全景写真撮影。基準点測量。
- 9月3日～ 西壁断面写真～実測。平面実測・レベリング。完掘写真撮影。

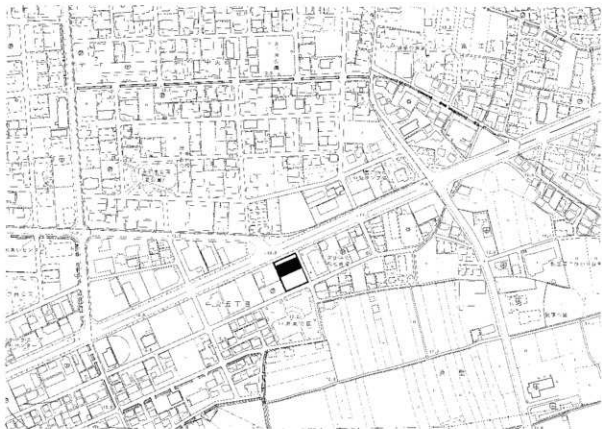
※当初の予定より2日早く調査を終了することができた。

第3章 発掘調査の概要

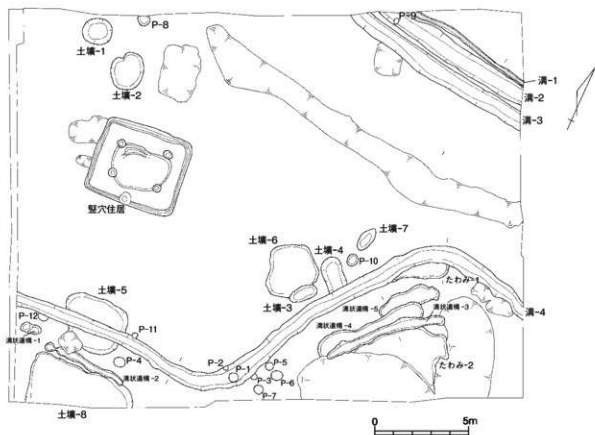
当該地は水田として利用されており、北側に位置する建物部分の約550㎡が調査の対象となった。

調査地の基本層序は、現代の水田耕作土直下に20cm程度の灰褐色土が堆積しており、さらに下層には灰茶色土層が認められる。いずれも自然堆積層である。今回検出された弥生時代～中世にわたるすべての遺構は、耕作土直下の灰褐色土層上面から掘り込まれており、このことから、当該地が後世に地下げされていたことが窺える。

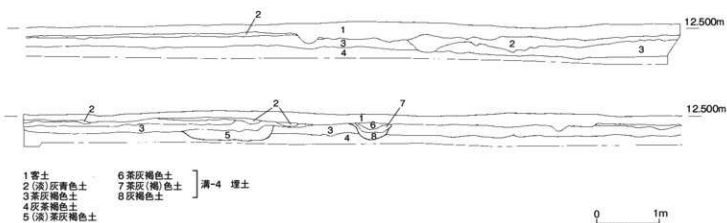
当該地は、中央地区土地区画整理事業に伴って、1980（昭和55）年7月～1982（昭和57）年9月まで発掘調査が実施され、縄文時代～中世にわたる複合遺跡であることが判明した真壁遺跡の範囲内に立地する。遺構配置図によると、今回の調査区の北側～西側に当たる東総社中原線部分では住居址はほとんどなく、西側には北西～南西へ流れる溝群がみられ、南側の道路部分も遺構のほとんどが溝であることから、当該地も溝群が主体となる遺構密度の低い地区と想定していた。しかしながら、遺構密度は低いものの、遺存状況の良好な古墳時代の住居址を1軒確認することができた。そのほかの遺構としては、土塋8基、ピット12基、溝4条、溝状遺構5基が確認されたにすぎない。



第3図 調査地位置図 (S=1/5,000)



第4図 遺構配置図 (S=1/200)



第5図 調査区西壁断面図 (S=1/60)

遺構・遺物

竪穴住居 (第6図, 巻頭図版1-②・2-①②, 第3~21図版)

調査区の北西寄りで検出された一辺5.0m×4.2mの方形を呈する住居址である。遺存状況は極めて良好で検出面から床面まで60cm余りを測る。床面直上には中央付近を中心に炭化物が広く分布する。

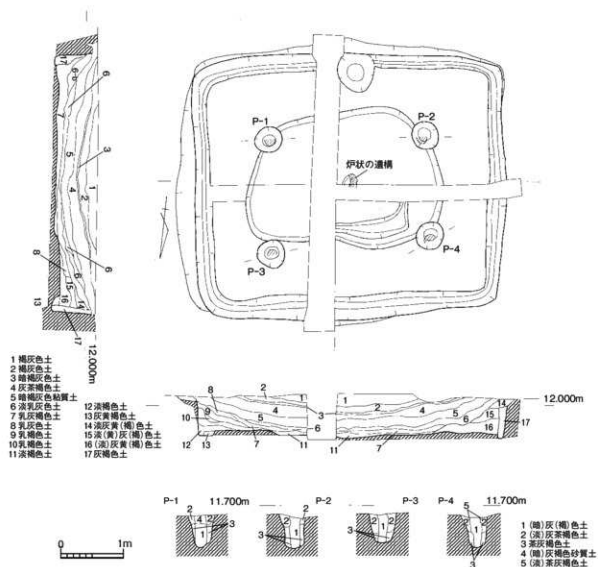
床面からは4本の柱穴が確認され、それぞれの柱の中央付近から内側は一段掘り下げられており、炭化物や焼土が堆積している。これらの炭化物を除去すると、さらに一段掘り窪められた炉跡状の赤く焼けた焼土面が検出された。焼土面は、暗赤褐色を呈しており、比較的低温であったことが窺える。

柱穴はいずれも径45cm前後で、床面からの深さが50cm～58cmを測る。柱穴からは径15～20cmの柱痕跡が確認され、柱が腐食した後、上層の炭化物を含む土が流入していた。

住居址の南辺中央付近にはポケットが敷設されており、内部からはほぼ完形の小型丸底壺が出土している。

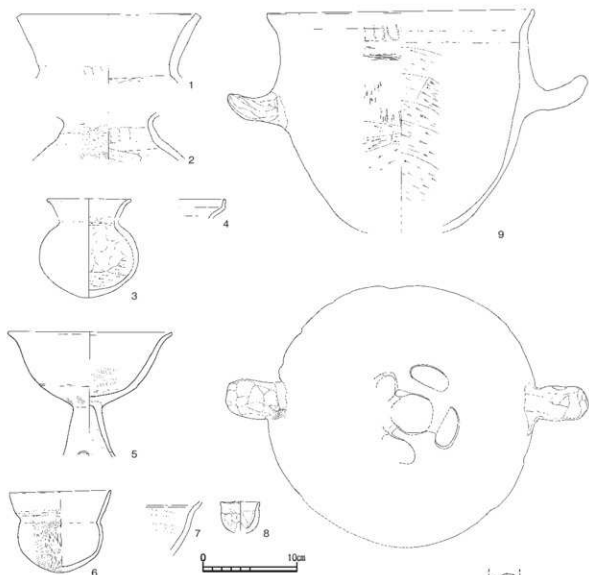
壁周囲には、幅約20～35cm、深さ10cm前後の壁溝が巡る。壁溝の外面には板壁痕跡が認められ、東端では板壁が腐蝕した後に上層の焼土や炭化物が流入していた。

住居址が廃棄された後、焼土や炭化物を多く含む土が堆積し、その上層には整然とした5層のレンズ状堆積が認められた。3層上面には薄い炭化物の層がみられ、その上層の1・2層は基盤層のプロックを含むことから、自然に埋没したのではなく、人為的に掘削した土を埋めたものと考えられる。



出土遺物（第7・8図、第31～34図版）

いずれも古墳時代の土師器で壺（1・2・3）、吉備型甕の口縁部（4）、高坏（5）、小型丸底壺（6）、鉢（7・8）、瓶（9）を図示することができた。その他、小型砥石1点が出土している。



第7図 竪穴住居出土遺物（S=1/4）

土壌

土壌-1（第9図）

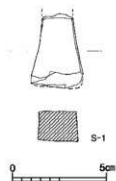
調査区の北西隅で検出された。楕円形で検出面からの深さは10cm程度で緩やかに窪んでいる。

土壌-2（第10図）

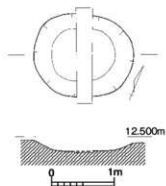
土壌-1に近接して北西隅で検出された。不正形なハート形を呈しており、検出面からの深さは約20cm程度である。

土壌-3（第11・12図）

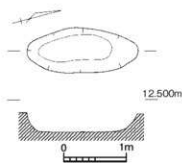
細長い楕円形を呈しており、深さ約30cmの土壌で、土器小片が2点出土している。10は弥生時代後



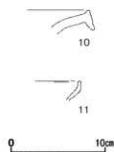
第8図
竪穴住居出土遺物（S=1/2）



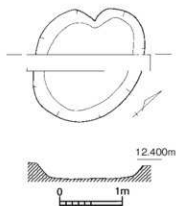
第9図 土壌-1 (S=1/60)



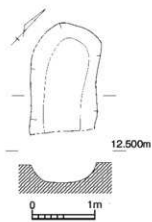
第11図 土壌-2 (S=1/60)



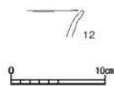
第12図
土壌-3出土遺物
(S=1/4)



第10図 土壌-2 (S=1/60)



第13図
土壌-4 (S=1/60)



第14図
土壌-4出土遺物
(S=1/4)

期の壺口縁片、11が古墳時代初頭の壺口縁片である。

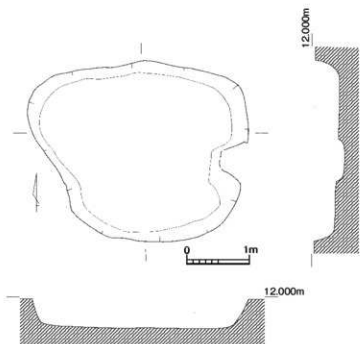
土壌-4 (第13・14図)

溝-4によって切られているが、南北にやや長い不定形な土壌である。土器小片が1点のみ出土しているが、竪穴住居から出土した壺(3)の口縁部形態と類似していることから、同様の壺と推測される。

なお、色調や調整などから別個体と考えられる。

土壌-5 (第15図)

調査区の南西角付近で検出された。土壌の中では大型のもので、深さも最深約50cmを測る。中央付近を溝-4によって切られている。



第15図 土壌-5 (S=1/60)

土壇-6 (第16図)

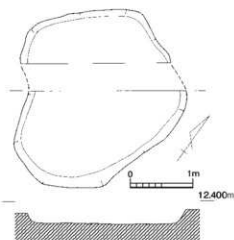
南端を土壇-3に切られている。残りは浅く、深さ15cm程度である。

土壇-7 (第17図)

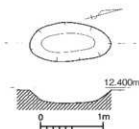
調査区の中央付近やや南寄りに位置し、土壇-3・4・6と近接している。

土壇-8 (第18図)

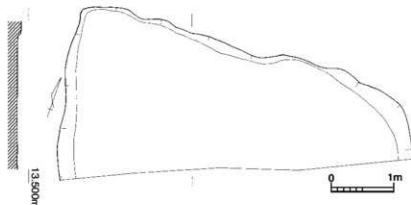
調査区の南西角に位置する最も規模が大きい土壇であるが、上部はほとんど削平されており、深いところでも7cm程度しか残っていない。



第16図 土壇-6 (S=1/60)



第17図
土壇-7 (S=1/60)



第18図 土壇-8 (S=1/60)

溝

溝-1～3は調査区の北東部に集中しており、北西から南東方向に流れる溝である。いずれの溝も近接しているが、明瞭な切り合いは認められなかった。

溝-1は細く浅い溝である。遺物が出土していないため時期は不明であるが、埋土が暗灰褐色を呈することから、古墳時代以前の溝と推測される。

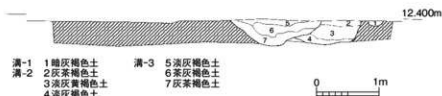
溝-2、溝-3は当初同一の溝と捉えていたが、中層以下で2条の溝であることが判明した。

中層より上は、溝-2・3の遺物が混在していたが、確実に溝-2出土遺物と捉えられる下層の遺物は第21図のとおりである。13～15は弥生時代末～古墳時代初頭の壺、16～22は甕の破片である。23・24は高坏、25は鉢である。なお、溝-2からは細片化した鉄器片も出土した。

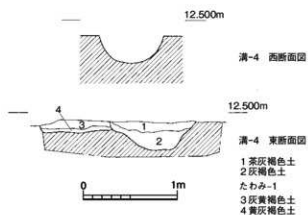
溝-3からの出土遺物は少なく、図示できたのは弥生土器の壺底部と、土師器の高坏片のみである。

なお、溝-2・溝-3の上層からは、図示できる土器が一定程度出土した。28は弥生後期の長頸壺で、29～33は土師器の壺である。34～51は古墳時代の甕で、52は台付鉢である。53～61は高坏、62・63は台付鉢、64～68は鉢である。

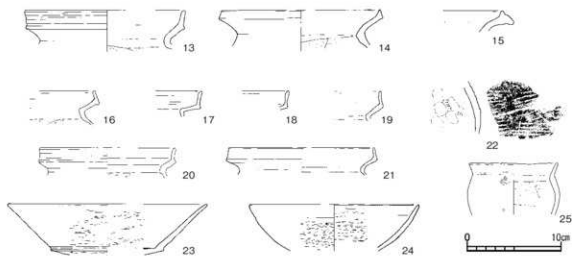
溝-4は、調査区の南端付近を蛇行して流れる溝である。幅約90cm、深さ約30cmで、2層の埋土が認められる。遺物は壺の口縁部が1点のみ出土しており、暗灰褐色系の埋土からみても、古墳時代に属するものと考えられる。



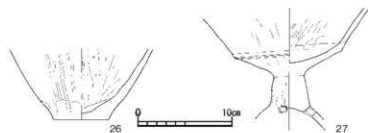
第19図 溝-1~3断面図 (S=1/60)



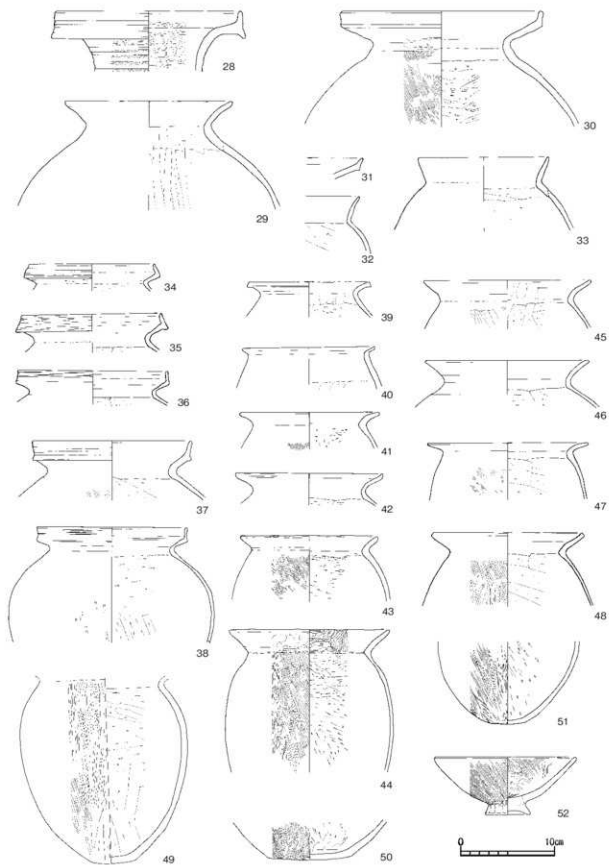
第20図 溝-4 西断面・東断面図 (S=1/40)



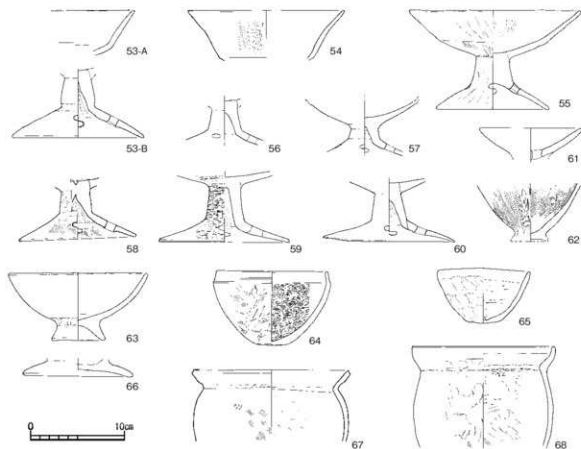
第21図 溝-2 出土遺物 (S=1/4)



第22図 溝-3 出土遺物 (S=1/4)



第23図 溝-2・3上層出土遺物1/2 (S=1/4)



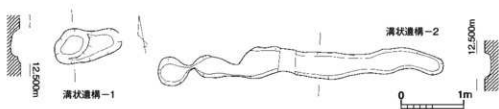
第24図 溝-2・3上層出土遺物2/2 (S=1/4)



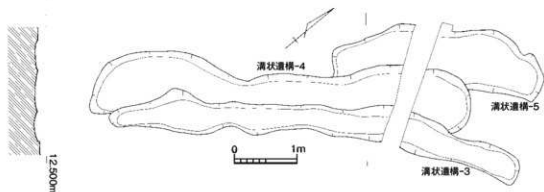
第25図 溝-4出土遺物 (S=1/4)

溝状遺構

溝状遺構は5基検出されている。1・2は単独で、3～5は切合っているが、いずれも遺物が出土していないため時期は不明である。土層の色調が比較的明るいため古代より新しい時期の可能性が高いものと推測される。



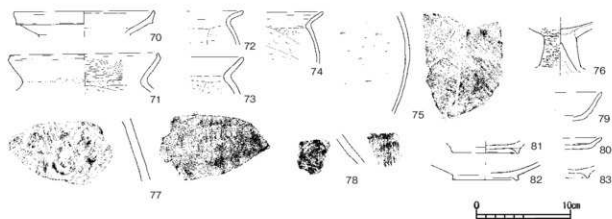
第26図 溝状遺構-1・溝状遺構-2 (S=1/60)



第27図 溝状遺構-3・4・5 (S=1/60)

遺構に伴わない遺物

70・71は土師器の壺である。72～75は土師器の甕である。76は土師器の高坏片である。77・78は須恵器の甕で、内面には当具痕跡がみられることから、70～76の土器より新しい6世紀以降のものと推測される。79～83は古代～中世の遺物で特筆するものとしては、82が灰軸陶器で高台などが約3分の1弱残存している。



第28図 遺構に伴わない遺物 (S=1/4)

第4章 まとめ

今回の調査区は、1980年～1982年に区画整理事業に伴って発掘調査が実施された区域から、南に位置する。地形は南に向かって下がっていることから、以前の調査区に比べ、遺構密度は格段に低くなる（第2図参照）。

今回の調査区の面積は約550㎡で、古墳時代の住居址が1軒、土壘8基、ピット12基、溝4条、溝状遺構5基と遺構は少なくまばらであり、住居址や溝以外では、遺物もほとんど出土しなかった。

溝内からは、弥生時代後期の遺物も若干見られるが、そのほとんどが古墳時代に属するもので、4～5世紀の所産と考えられる。

遺構に伴わない遺物としては、当具痕跡が残る須恵器の甍片が2点出土しているが、表面はいずれも摩耗している。古代～中世の土器も若干認められるが、須恵器の甍片と異なって、表面の摩耗はほとんどみられなかった。その中で1点ではあるが灰軸陶器の高台を含む底部付近が、約1/3弱出土している（第28図82）。今回の調査では、6世紀以降と考えられる遺物で、遺構に伴うものは見受けられなかった。

遺構の中で特筆されるものとしては、5.0m×4.2mの方形住居址があげられる。検出面から床面まで約60cmを測り、非常に残りのよい状況であった。

1980～1982年の調査では、今回の調査地より高いレベルに位置したことからも、検出された住居址はいずれも上部をかなり削平されており、残りのよいものでも床面まで40cm程度である。

今回出土した住居址は4本柱で、それぞれの柱の中央付近から内側へ一段掘り下げており、炭化物や焼土が堆積していた。これらの炭化物や焼土を除去すると、さらに一段掘り窪められた箇所、炉跡状の焼土面が検出された。

住居址内の4本の柱穴は、いずれも径45cm前後で、床面から50cm～58cm程度まで埋め込まれていた。柱穴からは15cm～20cm程度の柱痕跡が確認されており、柱が腐食した後は上層の炭化物を含む土が流入していた。

住居址南壁の中央付近に土壘が1基確認されたが、住居の壁面を壊すことなく接しているため、この住居に伴うものと考えられる。土壘内からは、ほぼ完形の小型丸底壺が1点出土している。

住居址内からは、壺・甍・高坏・新しい形態の小型丸底壺や鉢などのほか甎も出土しており、これらの遺物から、この住居址は5世紀代に築かれたものと想定される。

なお、この住居址は残りがよかったことから、今後残存状態のよい同時期の住居址との比較検討を行ってみたい。

第1表 遺物観察表(土器)

番号	遺構・土層名	種別	器種	胎土	色調
1	竪穴住居	土師器	壺	0.2mm~3mm前後砂粒 長石(多)	外:にぶい黄橙10YR7/2 内:にぶい黄橙10YR7/3
2	竪穴住居4層	*	壺	0.2mm~2.5mm前後砂粒 角四石(多)	外:にぶい黄橙10YR7/4 内:にぶい浅黄2.5YR7/3
3	竪穴住居5層	*	小型壺	0.2mm~3mm前後砂粒 長石(多)	外:浅黄橙10YR8/4 内:浅黄橙10YR8/4
4	竪穴住居中央の 凹部	*	甕	0.2mm~1.5mm前後砂粒(中)	外:灰黄2.5Y6/2 内:灰白2.5Y7/1
5	竪穴住居	*	高坏	1mm以下長石・3mm以下石英(多)	外:橙7.5YR7/6 内:橙5YR6/6
6	竪穴住居 P-2	*	小型 丸底壺	0.2mm~1.5mm前後砂粒 長石(多)	外:にぶい黄橙10YR7/4 内:明黄褐10YR7/6
7	竪穴住居4層	*	鉢	0.2mm~1.5mm前後砂粒 長石(多)	外:橙5YR6/6 内:にぶい黄橙7.5YR7/4
8	竪穴住居	*	小型鉢	0.2mm~1.5mm前後砂粒 長石(多)	外:にぶい褐7.5YR5/4 内:灰褐7.5YR6/2
9	竪穴住居3	*	甗	2mm以下長石・1mm以下石英(多)	外:橙2.5YR6/8 内:橙2.5YR6/8
10	土層3	弥生 土器	壺	0.2mm~1mm前後砂粒 長石(多)	外:橙5YR7/8 内:橙5YR6/8
11	土層3	土師器	甕	0.2mm~0.8mm前後砂粒 長石(中)	外:橙5YR6/6 内:橙5YR7/6
12	土層4	*	小型壺	0.2mm~0.8mm前後砂粒 長石(少)	外:橙7.5YR7/6 内:橙7.5YR7/6
13	溝2中層以下	弥生 土器	壺	0.2mm~2.5mm前後砂粒 長石(多)	外:浅黄橙10YR8/4 内:浅黄橙10YR8/4
14	溝2中層以下	*	壺	0.2mm~1.2mm前後砂粒(中)	外:褐灰7.5YR5/1 内:褐灰7.5YR6/1
15	溝2下層	*	壺	0.2mm~1.8mm前後砂粒(中)	外:橙5YR7/6 内:橙5YR7/6
16	溝2中層以下	*	甕	0.2mm~1.5mm前後砂粒(中)	外:にぶい橙7.5YR7/4 内:浅黄橙7.5YR8/4
17	溝2下層	土師器	甕	0.2mm~0.8mm前後砂粒(中)	外:にぶい橙7.5YR7/4 内:にぶい黄橙7.5YR7/4
18	溝2下層6	*	甕	0.2mm~1mm前後砂粒(中)	外:橙2.5YR6/8 内:にぶい橙7.5YR7/4
19	溝2 6	*	甕	0.2mm~2mm前後砂粒 長石・雲母(多)	外:浅黄橙7.5YR8/4 内:にぶい橙7.5YR7/4
20	溝2中層以下	*	甕	0.2mm~1.6mm前後砂粒(中)	外:浅黄橙10YR8/3 内:浅黄橙10YR8/3
21	溝2中層	*	甕	0.2mm~1.5mm前後砂粒 長石(多)	外:橙5YR7/6 内:橙5YR7/6
22	溝2中層以下	*	甕	0.1mm~0.2mm前後砂粒 長石・石英(少)	外:灰白2.5Y8/2 内:灰黄褐10YR6/2
23	溝2	*	高坏	0.2mm~2mm前後砂粒 長石(多)	外:橙2.5YR7/8 内:橙2.5YR7/8
24	溝2中層以下	*	高坏?	0.2mm~1.5mm前後砂粒 長石・角四石(中)	外:浅黄橙10YR8/4 内:浅黄橙10YR8/4
25	溝2中層以下	*	鉢	0.2mm~2.5mm前後砂粒(中) 長石・角四石・雲母(中)	外:にぶい黄橙10YR7/4 内:にぶい黄橙10YR6/3
26	溝3	*	壺	0.2mm~3.5mm前後砂粒(中) 長石・角四石・雲母(中)	外:浅黄橙10YR8/3 内:浅黄橙7.5YR8/4
27	溝3土手E	*	高坏	0.1mm~0.5mm前後砂粒 長石・石英	外:浅黄橙7.5YR8/4 内:にぶい橙7.5YR7/4
28	溝2・3上層	弥生 土器	壺	0.2mm~2.5mm前後砂粒(多) 長石(多)	外:橙5YR6/6 内:橙5YR7/6
29	溝2・3	土師器	壺	0.2mm~2.6mm前後砂粒(多) 長石(多)	外:浅黄橙7.5YR8/4 内:浅黄橙7.5YR8/3

番号	遺構・土層名	種別	器種	胎土	色調
30	溝2・3上層	土師器	壺	0.2mm～2.5mm前後の砂粒(多)	外:浅黄橙10YR8/4 内:灰白10YR8/2
31	溝2・3上層	*	壺	0.2mm～1.5mm前後の砂粒(少)	外:浅黄橙10YR8/3 内:浅黄橙10YR8/3
32	溝2・3上層	*	壺	0.2mm～1mm前後の砂粒(少) 長石・石英(多)	外:浅黄橙7.5YR8/4 内:浅黄橙7.5YR8/4
33	溝2・3土手以東	*	壺	0.2mm～3mm前後の砂粒(多) 長石(多)	外:橙7.5YR7/6 内:浅黄橙10YR8/3
34	溝2・3上層	*	甕	0.2mm～2mm前後の砂粒(中)	外:にぶい黄橙10YR6/3 内:にぶい黄橙10YR6/4
35	溝2・3上層	*	甕	0.2mm～2mm前後の砂粒(多) 長石・雲母(多)	外:浅黄橙7.5YR8/4 内:橙7.5YR6/6
36	溝2・3上層	*	甕	0.2mm～1.5mm前後の砂粒(多) 長石(多)	外:浅黄橙10YR8/4 内:にぶい橙7.5YR7/4
37	溝2・3上層	*	甕	0.2mm～3mm前後の砂粒(多) 雲母・角四石(多)	外:浅黄橙10YR8/4 内:にぶい橙7.5YR7/5
38	溝2・3上層	*	甕	0.2mm～2.5mm前後の砂粒(多) 長石(多)	外:浅黄橙7.5YR7/4 内:灰褐7.5YR6/2
39	溝2・3上層	*	甕	0.2mm～1.5mm前後の砂粒(多) 長石(多)	外:橙7.5YR7/6 内:橙5YR6/8
40	溝2・3上層	*	甕	0.2mm～2.5mm前後の砂粒(中) 長石・角四石(中)	外:橙5YR7/6 内:橙2.5YR6/8
41	溝2・3上層	*	甕	0.2mm～3mm前後の砂粒(多) 雲母(多)	外:浅黄橙7.5YR8/4 内:浅黄橙7.5YR8/4
42	溝2・3上層	*	甕	0.2mm～2mm前後の砂粒(多) 長石(多)	外:浅黄橙10YR8/3 内:浅黄橙10YR8/3
43	溝2・3上層	*	甕	0.2mm～2mm前後の砂粒(多) 長石・雲母(多)	外:浅黄橙10YR8/3 内:灰白10YR8/2
44	溝2・3上層	*	甕	0.2mm～2.5mm前後の砂粒(多) 長石・角四石(多)	外:灰黄褐10YR6/2 内:灰白10YR8/2
45	溝2・3上層	*	甕	0.2mm～2.5mm前後の砂粒(多) 長石(多)	外:暗灰黄2.5Y5/2 内:淡黄2.5Y8/3
46	溝2・3上層	*	甕	0.2mm～2mm前後の砂粒(多) 角四石・長石(多)	外:灰白10YR8/2 内:灰白10YR8/2
47	溝2・3上層	*	甕	0.2mm～3mm前後の砂粒(多) 角四石(多)	外:浅黄橙7.5YR8/4 内:浅黄橙7.5YR8/4
48	溝2・3上層	*	甕	0.2mm～3mm前後の砂粒(中) 長石・角四石(中)	外:浅黄橙10YR8/4 内:浅黄橙10YR8/3
49	溝2・3上層	*	甕	0.2mm～3.5mm前後の砂粒(多) 長石(多)	外:浅黄2.5Y7/3 内:浅黄2.5Y7/4
50	溝2・3上層	*	甕	0.2mm～3mm前後の砂粒(多) 長石(多)	外:浅黄2.5Y7/3 内:黄灰2.5Y6/1
51	溝2・3上層	*	甕	0.2mm～4mm前後の砂粒(多) 長石(多)	外:浅黄橙10YR8/3 内:にぶい黄橙10YR7/3
52	溝2・4上層	*	白付鉢	0.2mm～2mm前後の砂粒(多) 長石・雲母(多)	外:浅黄橙10YR8/3 内:灰白10YR8/2
53A	溝2・3	*	高坏 坏部	0.2mm～3mm前後の砂粒(多) 長石(多)	外:灰白7.5YR8/2 内:明濁灰7.5YR7/2
53B	溝2・4	*	高坏 脚部	0.2mm～3mm前後の砂粒(多) 長石(多)	*
54	溝2サブトレ	*	高坏	0.2mm～0.8mm前後の砂粒(多)	外:橙5YR7/6 内:橙5YR7/6
55	溝2・3上層	*	高坏	0.1mm～0.2mm前後の砂粒	外:浅黄橙10YR8/3 内:浅黄橙10YR8/3
56	溝2・3上層	*	高坏	0.2mm～2.5mm前後の砂粒(中) 角四石(中)	外:橙5YR7/6 内:淡橙5YR8/4
57	溝2・3上層	*	高坏	0.2mm～1.2mm前後の砂粒(中) 角四石・長石(中)	外:橙7.5YR6/6 内:橙7.5YR7/6
58	溝2・3上層	*	高坏	0.2mm～2mm前後の砂粒(中) 長石・角四・雲母(中)	外:灰白7.5YR8/2 内:灰白7.5YR8/2

番号	遺構・土層名	種別	器種	胎土	色調
59	溝2・3上層	土師器	高坏	0.2mm～1.8mm前後の砂粒(中) 長石・角閃・雲母(中)	外: 橙2.5YR6/8 内: 橙2.5YR6/8
60	溝2・3上層	*	高坏	0.2mm～0.4mm前後の砂粒(多) 角閃石(多)	外: 浅黄橙7.5YR8/4 内: 浅黄橙7.5YR8/4
61	溝2・3上層	*	高坏?	0.2mm～3mm前後の砂粒(中) 角閃石(中)	外: にぶい黄橙10YR7/4 内: にぶい黄橙10YR7/4
62	溝2・3上層	*	台付鉢	0.2mm～2.5mm前後の砂粒(多) 長石(多)	外: 淡橙5YR8/3 内: 淡黄橙10YR8/3
63	溝2・3上層	*	台付鉢	0.2mm～2mm前後の砂粒(多) 長石・角閃石(多)	外: 橙2.5YR6/8 内: 橙2.5YR6/8
64	溝2・3上層	*	鉢	0.2mm～2mm前後の砂粒(多) 角閃石(多)	外: 浅黄橙7.5YR8/4 内: 浅黄橙7.5YR8/4
65	溝2・3上層	*	鉢	0.2mm～1.5mm前後の砂粒(多) 長石(多)	外: 浅黄橙10YR8/4 内: 浅黄橙10YR8/4
66	溝2・3上層	*	台付鉢or甕	0.2mm～2.5mm前後の砂粒(多) 雲母(多)	外: 淡黄橙7.5YR8/3 内: 黒7.5YR2/1
67	溝2・3上層	*	鉢	0.2mm～3mm前後の砂粒(多) 長石・角閃石(多)	外: 淡黄2.5Y8/3 内: 灰白2.5Y7/1
68	溝2・3上層	*	鉢	0.2mm～3mm前後の砂粒(多) 長石・雲母(多)	外: 浅黄橙10YR8/3 内: 浅黄橙10YR8/3
69	溝4	*	壺	0.2mm～2mm前後の砂粒(多) 角閃石(中)	外: 橙5YR6/6 内: 橙5YR6/6
70	排土中	*	壺	0.2mm～2mm前後の砂粒(多) 雲母(多)	外: 浅黄橙10YR8/3 内: にぶい黄橙10YR7/2
71	攪乱	*	壺	0.2mm～2.5mm前後の砂粒(中) 角閃石(中)	外: 浅黄橙10YR8/3 内: 浅黄橙10YR8/4
72	攪乱	*	甕	0.2mm～1.5mm前後の砂粒(中) 長石・角閃石(中)	外: にぶい黄橙10YR7/3 内: にぶい黄橙10YR7/3
73	攪乱	*	甕	0.2mm～2mm前後の砂粒(中) 長石・角閃石(中)	外: 浅黄橙10YR8/4 内: 淡黄2.5YR8/3
74	攪乱	*	甕	0.2mm～4mm前後の砂粒(多) 長石(多)	外: 浅黄橙10YR8/3 内: 淡黄2.5YR8/3
75	検出中	*	甕	0.2mm～2mm前後の砂粒(多) 角閃石(多)	外: 淡橙5YR8/3 内: 灰白10YR8/2
76	攪乱	*	高坏	0.2mm～1.5mm前後の砂粒(多) 雲母(多)	外: 灰黄褐10YR5/2 内: にぶい黄橙10YR7/4
77	攪乱	須恵器	甕	0.1mm前後の砂粒 長石・石英(少)	外: 灰白2.5Y8/1 内: 灰白2.5Y8/1
78	攪乱	須恵器	甕	0.1mm以下の砂粒 長石(少)	外: 灰黄2.5Y7/2 内: 灰5Y6/1
79	攪乱	土師器	坏	0.2mm～0.5mm前後の砂粒(少) 茶褐色粒・長石(少)	外: 橙7.5YR7/6 内: 橙7.5YR7/6
80	攪乱1	*	皿	0.2mm～0.5mm前後の砂粒(多) 雲母(多)	外: にぶい橙7.5YR7/4 内: 橙7.5YR7/6
81	攪乱1	*	高台のみ	0.1mm前後の砂粒(多) 長石・石英(多)	外: 橙5YR6/8 内: 橙7.5YR6/6
82	攪乱1	灰釉陶器	碗	0.2mm～1.5mm前後の砂粒(少)	外: 灰白2.5YR8/1 内: 灰白2.5Y8/2
83	攪乱1	内黒	碗?	0.2mm～0.5mm前後の砂粒(中) 長石・雲母(中)	外: にぶい橙7.5YR6/4 内: にぶい褐7.5Y5/3

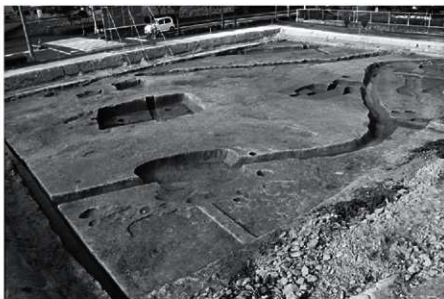
第2表 遺物観察表(石器)

番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
S-1	小型砥石	40mm	29mm	1.75mm	22g	中央付近で欠損後使用

第1図版
調査前
南東から



第2図版
完掘全景
南西から



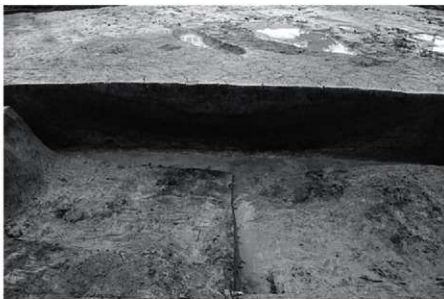
第3図版
竪穴住居
床面炭化物出土状況
南から



第4図版
竪穴住居完掘
南から



第5図版
竪穴住居
南北断面
東から



第6図版
竪穴住居
炉状遺構
北から



第7図版
竪穴住居
炉状遺構半裁状況
東から



第8図版
竪穴住居
炉状遺構完掘
東から



第9図版
竪穴住居南辺
壁体痕跡検出状況
北から



第10図版
竪穴住居南北トレンチ
南辺壁体痕跡
南から



第11図版
竪穴住居
東西土手焼土流入状況
北から



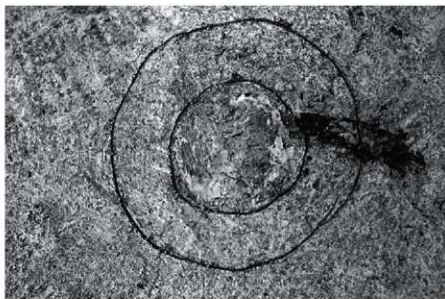
第12図版
竪穴住居
東西断面東半
北から



第13図版
竪穴住居
東西断面西半
北から



第14図版
竪穴住居
P-1検出状況
南から



第15図版
竪穴住居
P-1断面
南から



第16図版
竪穴住居
P-2検出状況
南から



第17図版
竪穴住居
P-2断面
南から



第18図版
竪穴住居
P-3検出状況
北から



第19図版
竪穴住居
P-3断面
北から



第20図版
竪穴住居
P-4検出状況
北から



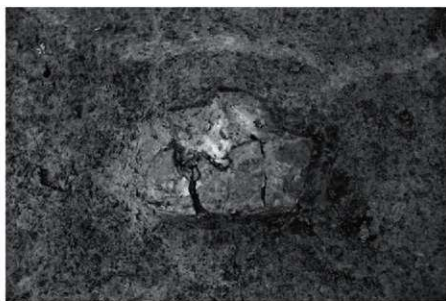
第21図版
竪穴住居
P-4断面
北から



第22図版
溝-1～3
完掘
南東から



第23図版
溝-2
鉄器片出土状況
南から



第24図版
溝-4
土器出土状況
南西から



第25図版
溝-1～3断面
北東から



第26図版
溝-1～3
土手断面
南東から



第27図版
溝-4断面
東から



第28図版
西壁断面
南東から



第29図版
完掘全景
北東から



第30図版
調査風景
東から





第31図版 竪穴住居出土 高坏 (5)



第32図版 竪穴住居出土 小型丸底壺 (6)



第33図版 竪穴住居出土 甑 (9)



第34図版 竪穴住居出土 砥石 (S-1)



第35図版 溝-2・3上層出土 鉢 (64)



第36図版 溝-2・3上層出土 高坏 (60)

報告書抄録

ふりがな	まかべいせき							
書名	真壁遺跡							
副書名	分譲マンション建設に伴う発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	総社市埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ番号	32							
編著者名	高橋進一, 平井典子							
編集機関	岡山県総社市観光プロジェクト課							
所在地	〒719-1163 岡山県総社市地頭片山17-1 TEL 0866-92-8363							
発行年月日	2024年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
まかべいせき 真壁遺跡	岡山県総社市中央 五丁目9-107	33-208	846	34° 40' 10.04"	133° 45' 13.4"	2003年 8月19日 ～ 9月3日	約550㎡	分譲 マンション 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
真壁遺跡	集落址	古墳時代	竪穴住居・土壇・ 柱穴・溝	4世紀～5世紀代の土師 器が主。そのほか弥生土 器・砥石・古代～中世土 器を若干含む。		残存状況の良好な古墳時 代（5世紀代）の住居址 が1軒出土。		
要約	<p>区画整理事業に伴い、1980年7月～1982年9月にわたって発掘調査が実施された真壁遺跡の南側に、分譲マンション建設が計画されたことによって発掘調査が実施された。遺構密度は低いものの、5世紀代の住居址1軒が発見された。検出面から床面まで約60cmをはかり、周辺の同時期の溝が上部を大きく削平されていることからみて、築造当初はかなり深く掘り下げられていたものと想定される。内部の跡や、埋没の過程も良好に観察することができた。なお、遺構に伴わない遺物ではあるが、古代の灰軸陶器も出土している。</p>							

総社市埋蔵文化財発掘調査報告 32

真壁遺跡

分譲マンション建設に伴う発掘調査報告書

令和 6（2024）年 3 月 29 日 印刷

令和 6（2024）年 3 月 29 日 発行

編集発行 岡山県総社市観光プロジェクト課
岡山県総社市地頭片山 17-1

印刷 柳本印刷株式会社
岡山県総社市総社一丁目 10 番 24 号

